

茨城だより7 一日枝神社の流鏑馬(やぶさめ)一

皆さま、こんにちは。昨年度は、**校長通信「並木ドリーム」**のご愛読、誠にありがとうございました。今年度も、**並木中等教育学校**の校長をつとめます**中島博司**です。

さて、平成29年度の「並木ドリーム」は、装いを少し変え、通算**第201号**からスタートいたします。今年度も、皆さまに**愛される紙面**を提供していきたいと思っておりますので、引き続き、ご愛読・ご拡散のほど、よろしくお願いいたします。

新装第一弾は、旧新治村の日枝神社（現・茨城県土浦市東城寺127-1）で毎年4月の第1日曜日に開催されている「**日枝神社流鏑馬祭**」の紹介です。何と、このお祭りの主役である「**從羅天**（じゅらてん）」は、本校の**小神野文彦先生**（保健体育担当・特別活動部長・1年次副主任・軟式野球部顧問）です。昨年5月に、そのことを聞いたので、今年は絶対に取材してドリームで紹介しようと思い、4月2日（日）に見学に行ってきました。お祭りの内容は下の看板をご覧ください。小神野（おかの）先生の**勇姿**、かっこよかったです。



流鏑馬祭の伝説

昔、東城寺の守護神だった山王大権現（明治六年郷社日枝神社と改称）は、旧山ノ荘と称される小高沢辺、東城寺、小野、大志戸、本郷、永井地区の総社であり、例大祭が旧暦四月の申の日現在では四月第一日曜日に高行され、流鏑馬の神事が奉納される。起源については定かでないが、鎌倉天皇の弘仁元年（八〇〇）頃から伝えられ、鎌倉時代になって今のような形になったと言われている。

伝説によると、昔、山王境内に大きな幸加合欵木の大木があって、一匹の大猿が棲みついていて、里に出てきて農作物を食い荒らし農民を困らせていた。供物を捧げてみたが、いっこうに治まることなく、遂に東城寺から稚児を選び、人身御供として差し出すことになった。それを知った大志戸山城主小神野從羅天は、弓の名人志筑の市川将監を頼み、力を合わせて大猿を退治し農民の難儀を救った。

この伝説を儀式化し、流鏑馬神事として日枝神社拜殿前の馬場で奉納し、旧山ノ荘の平安と五穀豊穡を祈願するものである。流鏑馬の主役は、聖物、從羅天、将監の三人で、祭礼前七日間東城寺駒ヶ滝で水垢離をとって、身を清め神事に望む。

祭礼当日、境内の長い馬場には東城寺を除く六地区から流鏑馬の的が奉納され、一、二、三の矢場に立てられるこの的は、大猿が棲んだと言われる幸加の木で作られる。祭当番より聖物を迎える使者が立ち、やがて聖物が神社に送られると、從羅天が馬疾疾馳し将監に注進する。続いて神輿の運搬があり、間もなく從羅天の注進を受けた弓の名手将監が、地元当番のお揃い姿の若者を従えて緋の鎧もりりく馬より次々と矢をつがえて大猿になぞらした幸加の的を射る。この幸加の的は幸せと呼ぶ当たりの的として、学業成就や願掛けとなるものとして、地域はもうろん近郷近在の人々が争奪したものである。

この流鏑馬の神事は全国でも非常に珍しい行事であり、旧新治村の無形文化財。そして、平成六年には、茨城県無形民俗文化財に指定され今日に至っている。

日枝神社 流鏑馬祭保存会

